

「親育」スケジュール

- 9月18日(水) 子ミュカ®ゼミナール第54回
「看取りの事例から関わり方を学ぶ」
10:00~11:40 ウィンクあいち1105会議室【愛知県名古屋市】
担当：野村 浩史
- 10月13日(日) 子ミュカ®ゼミナール第55回×La C Lo
「家族の笑顔と健康を守る食事」
10:00~11:40 日進市にぎわい交流館 会議室ABC【愛知県日進市】
担当：林 佳奈
- 11月24日(日) 子ミュカ®ゼミナール第56回×ふぁみりーぐっど
「心を強くする秘訣」
13:30~15:10 小平市立花小金井北公民館 3階ホール【東京都小平市】
担当：黒田 忠晃
- 12月15日(日) 子ミュカ®ゼミナール第57回 特別編
「ハタモク×親育ネットワーク」
10:00~12:30 日進市生涯学習プラザ 学習室1・2【愛知県日進市】
ファシリテーター：黒田 忠晃

親育メンバー募集中

「親育メンバー」を随時募集しております。3種類の会員制度がございます。お申込は、HPからどうぞ。(講座受講で入会金免除、入会月で会費が異なります)

- ▼正会員 一緒に活動して、盛り上げていきたい。
入会金：10,000円 年会費：12,000円 (月1,000円)
- ▼利用会員 イベントや講座に参加したい。
入会金：1,000円 年会費：6,000円 (月 500円)
- ▼賛助会員 私たちを応援したい。
入会金：10,000円 年会費：12,000円 (月1,000円)

私達が正会員メンバーです (50音順、令和元年9月14日現在。メンバーの紹介はHPにて)
 代表理事) 黒田 忠晃 副代表理事) 山上 敏樹 理事) 横山 美八子 監事) 岩附 あずさ
 正会員) 縣 敦子 阿部 ゆり 岩淵 賢次 岩淵 優子 太田 秀樹 久野 由詠 谷川 未左子
 野村 浩史 林 佳奈 平野 弘子 眞柄 文子 松本 紀子 村野 政章 山本 百百代



NPO法人 親育 ネットワーク
 〒470-0122 愛知県日進市蟹甲町中島277-1 (にぎわい交流館内)
 電話：0561-76-3475 (La C Lo内)
 E-Mail：oyaiku.network@gmail.com
 HP：「親育ネットワーク」で検索
<http://www.oyaiku-net.org/>



「親育」を通じて、未来ある社会を



おやいく通信

NPO法人 親育 ネットワーク

令和元年9月 第5号

「発達段階シリーズ」を開催

子どもの健全育成を考える上で、発達段階を知ることは、子どもとの接し方にとっても役に立ちます。先走るのではなく、その時期に必要な経験を積み、1つ1つ積み重ねていくこと、基盤を創っていくことが大切です。



① 子ども研究からの発達段階別親育法

副代表理事で、特定非営利活動法人子どもアイデア楽工理事長の山上敏樹が担当。前職での子ども研究を元に、シュタイナー教育、モンテッソーリ教育、フィンランド教育における発達段階において、どのような能力を身につける必要があるかをレクチャー。総合的にいえるのは、主体性を育むためには、段階を踏んでいくことの大切さがありました。何のためにそれをやるのかをクリアにすること、情報過多や親自身がどのような成長をしてきたかによって、親が子どもを振り回してしまっはいけない。「過干渉、依存、先回り、ルールに乗せる、言われたことができるだけ、知識偏重」ではこれからの時代はいけないことは、百年も前から言われていたことですが今、真剣に考えなければいけない時代に来ています。

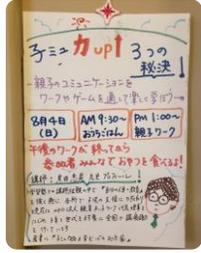
② エリクソンの発達段階から考える親育法

代表理事の黒田が担当。エリクソンの発達段階とは何かを確認し、乳児期、幼児前期、幼児後期、学童期、青年期の5つの期で達成されるべきこと、達成されないとどうなるかを文献も参考にしながら、進めていきました。大切なことは、その子の成長に合わせて、自己肯定感、自己効力感を育むためにできるアプローチを健全に行うこと、親のエゴや世間体による押しつけ、誘導、コントロールといったものは外していかなければいけないわけです。これらによって生まれる課題が、大人になっても残ってしまうと、これが負の連鎖を生んでしまいます。取り返すことは可能であるからこそ、きちんと発達段階をクリアさせて、精神的な面でも健全に育成することが求められています。青少年育成アドバイザーという立場としても様々な事例を出してお伝えしました。限られた時間でしたので、一番の根底にある、愛について考え、なぜそこが大切になるのかをお伝えしました。実体験のシェアも多くあり、とても有意義な学びの時間でした。「発達段階シリーズ」は、興味を持って頂いた方が多くいらっしゃいましたので、今後もシリーズ開催をしていけたらと思います。



子ゼミレポート

7月 子ミュカ®UP↑3つの秘訣×おうちごはん



親育ネットワークの「子ミュカ®ゼミナール」を、正会員の活動拠点で開催するコラボ企画を初開催しました。今期の新しい事業となります。初回は、理事の横山美八子が代表の「おうちごはん」とのコラボ。三重県鈴鹿市での開催でした。

今回のテーマは、「子ミュカ®UP↑3つの秘訣」。代表理事の黒田が担当しました。

親子での参加ということで、大人も子どももヒントが多いものを取り入れて、しつもんを投げかけながら、答え合うスタイルで、ワークやゲームをやりながら、ワイワイと90分を過ごしました。

ポイントは「共通点を探す」「いいことに目をつける」「枠を外す」の3つ。最後の「枠を外す」では、「何でも叶うとしたら何を叶えたい？」の問いに答え、「そこに近づくためには、どのようにしたらいいだろう？」を考えていただきました。何事も失敗を恐れず、行動に移すことが大切ですね。

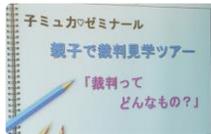


8月 親子で裁判見学ツアー（後援：愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会）

夏休み恒例となりました「親子で裁判見学ツアー」。早々に満員御礼となりました。今回は、午前、愛知県弁護士会館にて、児玉法律事務所の児玉昇之弁護士、名古屋第一法律事務所の森田茂弁護士に、午後は、名古屋第一法律事務所様にて、同事務所の青山玲弓弁護士にご登壇頂きました。

午前中は、裁判の仕組み、裁判官、検察官、弁護士についてレクチャー頂いた後、2チームに分かれて、刑事裁判の傍聴。1つの事件はテレビでも取り上げられた事件で、マスコミの取材もあり、珍しい案件だったとのことでした。生の裁判を体験して、緊張感を感じた方も多かったようです。

午後は、弁護士の具体的なお仕事内容をお聴きし、質疑応答、事務所見学の時間でした。印象に残ったことは、司法の知識は当然大切なのですが、信頼関係を構築するためには、コミュニケーション力が大切になってくるということ。実際に司法試験でこれを問われることはなく、実学の中で身につけていくものとのこと。人間力が問われるお仕事ですね。



ワイフェスに出展しました



7月6日（土）日進市内で活動する市民活動団体や学生団体等が一堂に会する「にっしんワイワイフェスティバル」に今年も出展。「モノづくりでソウゾウリョクアップ講座」として、教えない輪ゴム銃づくり。学生ボランティアの応援もあり、今年も大盛況！また、正会員メンバーが所属するLa C Loと特定非営利活動法人Earth as Motherも協働で「ハサミ一本でニッシーを作ろう」と「にっしん米づくり体験コース紹介」で、並んで出展しました。

正会員メンバー紹介 vol.5

～詳しくはHPをご覧ください～



林 佳奈

管理栄養士、健康食品管理士。名古屋の内科クリニックにて、糖尿病など生活習慣病を患う患者さんへの栄養指導や療養指導に携わるほか、鬱や不妊症、アレルギー体質といった幅広い心身のお悩みを持つ方に対して、栄養カウンセリングを行っています。

毎日の食事は子どもたちの健全な心身を育て、親子の絆を深めます。皆様とともに、食の分野からより良い社会づくりをしていきたいです。



岩瀬 賢次

「希うことは、何ですか？」いつもありがとうございます。夫婦で志を同じくする方々と、一緒に活動できることは、この上なく嬉しいです。東京から東海は、思ったより近く、車の往復も慣れてきました。不思議なご縁とワクワク感を湧かせながら、年に数回ですが参加させて頂き、後の時間は東の空の下、ふぁみりいぐっど®として、子どもたちと親と周りの大人の笑顔のために、楽しく漸進していきます。



ノリコラム vol.2「マナーを守るを伝える」 松本 紀子さんの連続コラム

最後にわたしから生まれた子が、令和初の成人を迎える。我が子育てもひと段落。精一杯だったけど、もっと向き合っていたら良かったと反省と共に、いつまでも親としての責任は続くんだと、複雑な気持ちになることもある。

最初に生まれた我が子の子育ては、親としてその都度初めてのことばかり。公園デビューという言葉が流行っていた時代で、生まれ育った土地とは遠く離れた土地での子育て、子どもと外出するだけで怖かった。チビ達のおもちゃの取り合いをほのぼののただ見ていればいいのに、親が手を出して折角の成長のチャンスを奪ったりもした。

めちゃくちゃ叱ったのは地下鉄のホームでふざけた時。死に直結する場所でマナーが守れなかった時。マナーを守ることは、自分を守ることに繋がるとわたしは思っている。

スマホに目を奪われ、そのまま移動する子どもを目にすることがある。人やモノにぶつかっても気づきもしない。痛かったんじゃないかと思うほどなのに、そのまま脇目もふらず移動する。スマホを渡しておけばおとなしいから楽。わからなくはない。けど、それせめて家の中とか危なくない所だけにしない？と、思ってしまう。

外は危ない所が沢山ある。周りが見えてない視野が狭い状態は怖い。人にぶつかってガツンとやられるかもしれない。駅ならホームから落ちるかもしれない。自転車や車を運転する年齢になったら、人を傷付ける加害者になるかもしれない。

「マナーを守るを伝える」ことは、我が子に自分を守ることの大切さを伝える一つだと、わたしは思っている。

子ども達の未来、そしてわたし達大人の未来と一緒に考えてみませんか？

【次号につづく】